

学校教育計画（平成28年度～平成32年度）

学校名	厚木高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制 普通科
-----	--------	------------------	---------

1 学校のミッション

全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の実現に応えるため、学年制によるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。

教育課程については、共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら、普通科として適切な編成を行う。

これまで質実剛健の校風のもと、豊かな人間性と公正な判断力を有する自主的で責任感の強い、人と積極的にかかわることができるたくましい人材の育成をめざして、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の実践など様々な教育活動に取り組んできたが、今後は、これからの時代に求められる資質・能力を踏まえ、より深く広い学びの在り方を追求した不断の授業改善を進める等、生徒自らが考察する力を高めるよう、教育活動の充実に取り組む。さらにSSHの取組成果を広く普及・啓発する。

また、平成28、29年度の2年間「学力向上進学重点校エントリー校」として平成30年度の学力向上進学重点校の指定に向けて取り組む。

2 学校教育目標

- 日本国民として、また国際社会でリーダーとして活躍できる広い教養を与える。
- 社会生活に深い理解を有し、尊敬と協力を惜しまぬ心豊かな人間性を養うことに努める。
- 正確な知識と健全な判断力を有する、自主的で責任感の強い人間性を養うことに努める。
- 個性を尊重し、その十分な伸長を期するとともに、将来の志望に応じた適切な指導に努める。
- 保健衛生に留意し、健康にして明朗な生徒として積極的な活動をさせる。

3 計画作成時点での課題

- 110年の伝統を誇る本校は、県央の雄として地域からの期待も大きい。例年、高い学力を持った数多くの生徒が入学してきており、学習意欲も高く、部活動や学校行事にも意欲的に取り組む生徒のニーズに応える教育および明確な「育てたい生徒像」が求められる。
- スーパーサイエンスハイスクールの指定を受け、課題発見解決能力向上のための探究活動を円滑に進める学習環境の整備を進めてきたが、新たに学力向上進学重点校のエントリー校として、スーパーサイエンスハイスクールの指定とあわせ、方向性・目的・育てたい生徒像を新たに精査・共有し、理数教育の充実を図るだけでなく、進学重点校としての確かな成果に向けた方策を整理する必要がある。
- 本校の三剣である剛健・真剣・勤儉を学校生活の規範としつつも、生徒の中には、精神的な重荷を負ってしまう者もいるので、こうした生徒を早期に発見し、個に応じた特別支援プログラムの作成と速やかな実施など、早期に対応する体制の強化が必要である。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究を核とした科学的リテラシーの育成、グローバル教育の研究、思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業研究と進学実績を導き出せる教育課程の研究 ・主体的に学ぶ態度の育成を通し自己決定力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① アクティブラーニングの視点を踏まえた授業研究を推進する。(1～4年目) ② 探究活動型学校設定科目「ヴェリタス」の効果検証と発展。(1～4年目) ③ 生徒の実践的英語能力の校内評価基準の確立(1年目)と向上のためのプログラムの整理および各種検定・コンテストへの参加指導と参加数の検証。(1～4年目)
2	(幼児・児童・) 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に全体のために行動できる力を育成するとともに生徒自らが学習計画と学校生活のバランス調整できるよう組織的な支援体制を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 茅賞やQ-U検査の実施の実施などの支援効果の検証。(2年目以降) ② 特別支援プログラムやいじめ防止委員会などでの基準を作成(1～2年目)し、組織的な支援体制を確立する。(3年目以降)
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的学びから進路決定に結びつける進路指導の実現と各種模試試験などを活用し、高い進路希望を諦めさせずに維持させ、高い進路実績を維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 探究学習から進路希望に結びつけるよう学習推進との連携を図るなど体系的進路指導を確立する。(1～2年目) ② 進路実績や卒業生講話、模試などのデータ活用し、効果的な進路指導を確立する。(1～4年目)
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学校間連携を進めるとともに、学校活動をいち早く公開し、発信に努め、地域の教育活動へ参画・協働を模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小・中学校、大学、県内他高校や研究機関等と連携した事業精査し充実させる。(1～4年目)
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼にねざした学校づくりにむけ、事故防止の取組みを推進するとともに学校全体の企画調整機能を強化し、経営課題を横断的かつ組織的に検討し、教育活動の展開・拡充させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①業務全体を俯瞰する体系的な校内研修、事故防止会議を設定する。(1～4年目) ②企画会議、グループ会議の連携、人材育成の機会提供など組織力を高める。(1～4年目)